

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172901936		
法人名	医療法人社団 旭豊会		
事業所名	グループホーム ライラック		
所在地	北海道旭川市永山4条6丁目2番2号		
自己評価作成日	令和4年3月7日	評価結果市町村受理日	令和4年4月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。  
 基本情報リンク先URL [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/017/index.php?action=kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigvosvoCd=0172901936-00&ServiceCd=320&Type=search](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/017/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=0172901936-00&ServiceCd=320&Type=search)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal		
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501		
訪問調査日	令和4年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人が母体のグループホームのため、24時間安心して医療が受けられる体制を取れている。また、主治医による訪問診療を定期的  
 に受け、必要に応じて病院での検査も受けられる対応ができています。  
 昨年も新型コロナウイルスの流行により外出行事等の実施や参加は出来なかったが、本来は法人と地域の方と合同で行う盆踊りに参加し  
 たり、地域で行っている認知症カフェに出掛ける事で地域の方々との交流の機会を持っている。  
 ホームの裏に中庭があり、サクラノボの木や畑、花壇を設け春から秋にかけて入居者の皆さんと一緒にお世話をしたり、食事の中に収穫  
 した野菜などを取り入れ季節を味わえるように取り組んでいる。  
 その他に、夏祭りや敬老会にご家族を招待し共に過ごす時間を作る事や、市内の七夕祭りへのくす玉出展、高齢者文化祭への出展など  
 入居者の皆さんと一年を楽しく過ごせるよう支援に取り組んでいる。  
 今年度も外出が出来ない、ホーム内で夏祭り、敬老会にお楽しみメニューを用意したり、定期的なおやつ作り等出来る範囲で生活を充  
 実できるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体となる医療法人社団旭豊会は、地域密着の医療と高齢者、障がい者への支援を中心に、認知症高齢者支援まで多種  
 の事業を運営し、それぞれが専門的な支援に取り組みながら連携体制も強化されています。開設から18年を迎える当事  
 業所は2ユニットで、バス停から近くコンビニや飲食店、病院、金融機関等が点在する住宅地に在り、利用者が地域生活を  
 継続し易い環境です。開設当初からの職員を始め、10年以上勤務のベテラン職員が多く、利用者に寄り添い、信頼関係を  
 保ち、認知症の特性を熟知した支援が行われています。特に、コロナ禍で外出支援が出来ない現状でも家庭的な雰囲気  
 で、ゲームや体操、書道、紙芝居など、その人なりの残存機能を大切に、楽しみの多い生活の提供にチームで取り組んで  
 います。夏祭りやライラック祭り、食事作りの日等を企画し、成吉思汗、ソーメン、アフタヌーンティーを楽しみ、畑の野菜で漬  
 物や酢の物料理と一緒に調理するなど、利用者の出来る力に着目し、役割や生きがいに繋がる支援に努めています。運営  
 母体が医療機関であることで、利用者の健康管理や医療との連携がスムーズとなり安心な体制を整えています。地域との  
 交流に制限がある中、高校生から寄贈された手作りの消毒液ペダルスタンドを、職員は感謝の思いで日々活用していま  
 す。外出や面会も閉ざされていますが、管理者はコロナ収束後には外食やドライブなどの外出行事や家族を交えた夏祭り  
 を実現したいとの意向を示しており、利用者、家族、職員の笑顔に繋がる取り組みに期待したい事業所です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいが			<input type="radio"/>	2 家族の2/3くらいと
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある				2 数日に1回程度
			3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない			<input type="radio"/>	4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
			3 利用者の1/3くらいが			<input type="radio"/>	3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が
			2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が
			2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が				
			2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者の皆様を主体としてゆったりと生活できるよう作成した理念と方針を職員室に掲示し、支援の話し合い時も忘れないようにしている。	開設当初に策定された基本理念と方針は、職員室に掲示、ネームカードの記載、新人オリエンテーション等で理解を促しています。理念はケアサービスの基本姿勢として日々浸透させることに努力し、ミーティング時に振り返り、支援のあり方を検討しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人で町内会に加入しており、古紙回収に協力や、盆踊りの参加で交流を持てるようにしている。また、地域からの入居の相談・見学などにも応じ、グループホームの生活について知って頂く機会としている。	この2年程、コロナ禍で殆どの関わりが中断していますが、町内の資源回収に協力し、地域高齢者の相談を受けています。例年、和太鼓演奏を披露してくれる高校生から、手作りの消毒液ペダルスタンドが寄贈されています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は中止しているが、地域の認知症カフェやバザーへの協力や運営推進会議で認知症の勉強会や日頃の取り組みをお伝えし理解を深めてもらえるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	今年も書面会議がメインとなったが、その中で取り組んでいる行事や消防訓練の内容をお伝えし、頂いた意見を日ごろの取り組みに反映している。	今年度も継続して書面会議を実施しています。事業所の現状や行事案内、避難訓練、感染症対策など書面に纏め報告しています。構成委員や家族からの評価は議事録に記し、運営への反映に繋がっています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の報告や事故報告書の書き方についてなど不明な点をお聞きし助言をもらっている。	管理者を中心に行政と協力関係を築いています。感染症対策、介護認定更新、生活保護関係、事故報告等で各種書類提出や報告を行い、事業所の現状を伝え、連携を図っています。現在は休止していますが、地域包括支援センター主催の認知症カフェに参加協力しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会の定期開催や年に2回の勉強会、新たに入ったスタッフへの指導などで身体拘束をせずケアの工夫を検討する事の大切さなどを話し合っている。	法人内に抑制防止委員会が設置され、指針を基に事業所内で身体拘束廃止委員会及び内部研修を定期的に行い、職員の意識統一を図っています。拘束や抑圧感の無いケアを基本に、事例を通してその弊害を学び、適切な対応に繋がっています。センサーは使用目的を明確にし、家族の同意の下に使用しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃の入居者に対する言葉かけなどについても、互いに気になる時には伝え合えるようにしたり、スタッフのストレスが溜まらないよう話し合う時間を作るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在色々な制度を活用している方はいないが、入居者の中に必要と思われる方がいないかなどは都度検討し、必要に応じて支援できるよう対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前の見学時に重要事項説明書などを説明し、館内や居室も見て頂き生活を具体的にイメージしてもらいながら不明点の聞き取りをしている。また、改定時も十分な説明を行い不明点を残さないよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談苦情窓口があることを伝え、外部の相談機関についてもポスターを掲示し伝えている。また、日頃の会話からも要望をくみ取り反映している。	コロナ禍で家族の来訪が困難であり、利用者の状況は、毎月担当職員から日頃の様子や受診内容、行事予定など記載した「個別の状況のお知らせ」を写真掲載で送付しています。特変時には電話で詳細を報告し、家族の意向を聞き取り、ケアや運営に反映させています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃の会話から出る提案を組み入れたり、月に一度のミーティングで集まった際に話し合ったことを業務やケアに反映している。	毎月のミーティングで職員の意見を吸い上げ、個別に話を聴く機会も設けています。事務長の訪問も多く、管理者と共に職員の意見を傾聴し、業務体制の整備に生かしています。法人内に託児所が設置され、職員の定着率が上がり、利用者との馴染みの関係が継続されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	それぞれのスタッフの休み希望や働くスタイルについて尊重し、働き続けられるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は外部研修へは出られていないが、ミーティングの際に動画を活用した研修を行ったり、日ごろの働き方を見ながら必要と思われる話し合いなどを行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	包括主催の地域密着型サービスの定例会に参加し、地域の情報交換や交流を行い、職場内にもその内容を周知するよう回覧している。また、包括主催研修へスタッフが参加することもある。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望時にご本人の様子を見せて頂いたり、ご家族からもご本人がどのような方でどんな不安があるかを聞き取りし、館内の生活について実際に見てもらいながら説明した上で、再度話し合う機会をこまめに作って不安解消に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学时、生活状況や希望などを聞き取り不安なこと、わからないこと等があればいつでも相談や連絡をしてもらえるように伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の求めている事や出来る事・出来ないこと、ご家族の希望も聞き取りを行い、ご本人に無理のないサービスに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	壁の飾り作りやおやつ作り、食事の下ごしらえなどを共に行い、会話をして暮らしを共にする関係を築き、ご本人の出来ることは継続してできるように支援行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りでご本人の些細なことも伝えていくように努め、来訪時や電話の際も状況を伝え、現状を理解しあえる関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自室にご本人のなじみの物を置き、ご本人が暮らしていた場所へのドライブやご友人やご家族との外出等の支援を行っている。	感染予防のため面会や外出を制限しており、親しい人達との関わりは、電話等の取次ぎで対応しています。携帯電話持参の方は自由に関係を継続しています。日常の中で利用者の過去を振り返る機会としてアルバムを見て昔話を聞いています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂で過ごされる時間が長い方が多いのでそれぞれのレベルに合うよう席の配置を行い、皆で行えるような活動も行いながらかわりが持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後でも、いつでも相談に乗れることを伝えている。他施設に入居の際、必要な情報を伝え本人らしい生活が継続できるよう努めている。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活ペースを大切にしよう心掛けています。意思疎通の難しい場合は表情や動作などでできる限り応えられるよう努めています。	長期勤続者が多いため、利用者と目が合った時点で状況を理解できることも多く、汲み取った意向を実現に向け取り組んでいます。困難な場合は、家族等の意見を頂きながら、本人本位の支援の方向性を見いだしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活やサービス利用について聞き取りし、また、ご本人とも日々のコミュニケーションや関りの中でお聞きしたことを記録してスタッフ間での周知をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に合わせた生活リズムの構築認知症の進行の中でまだ残っている能力を生かせるように活動やお手伝いなどを検討している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族や医療職からの意見を交えスタッフ間で話し合い、それぞれの意見を反映したご本人の状況に即したプランになるように作成している。	介護支援専門員を中心とし、モニタリングを基に、その人らしい過ごし方ができるよう、担当者会議で協議しています。本人、家族の意向を踏まえ、看護師の注意点も含め、3ヵ月毎に介護計画を見直しています。緊急時は随時見直しをかけています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを個人記録に添付し、日々目に入るようにする事や日頃の申し送り、ミーティングなどで話し合い見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方にいる方やご高齢の方の買い物、受診付き添いなどを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在はコロナウィルスのためできないが、行事の際にボランティアの方を招いて余興をしてもらったり、市内の七夕祭りや高齢者文化祭へ作品を出展させてもらうなど、能力を生かして楽しめる機会を見つけている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人病院の主治医による訪問診療を2週に一度受けることで健康状態の把握をしてもらっている。また、担当看護師が日頃から主治医との連携を取っており、急な体調不良時にも連絡調整を行ってもらっている。	現在は利用者全員が母体法人の医療機関から月2回の訪問診療を受けており、24時間連絡、指示が得られる体制です。歯科医は都度訪問し、かかりつけ医や専門科受診は家族が対応しています。委託看護師が平日は毎日訪問することで状態の変化を相談し易く、主治医との連携も図れ、適切な支援が受けられる環境を整えています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当看護師が平日在中しており相談が出来、それ以外の日時でも電話での連絡を取れるようにしている。看護師が主治医との連携を図ってくれ、看護師不在でも電話での連絡調整をしてくれることで適切な医療を受けられている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、担当看護師が主治医や病院看護師に情報提供し、入院中も定期的に病院へ足を運び様子を見て退院に向けての相談をするなど関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合や終末期の在り方について、ご本人、ご家族に確認を取っている。また、その時期になった時にも早い段階で再度ご家族と話し合いの機会を持ち、当ホームでできる限り希望に沿うように支援している。	医療連携体制の中で重度化した場合の看取りの考え方を本人、家族に説明し同意を得ています。事業所は状況変化に応じたギリギリまでの支援に努めていますが、看取りの経験は無く、重度化、終末期に関しては、運営母体である医療機関への移行も視野に入れて検討を行うように支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを用意している。急変時やノロウイルス、新型コロナウイルスなどの対応の勉強会や備えを行っている。担当看護師や病院との連携についても確認を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練を行い地域の方の協力も得ている。避難経路についてスタッフと確認するようにしている。	今年度は、消火設備会社の協力を得て、昼・夜を想定した火災避難訓練を実施しています。近隣には運営母体となる病院や高齢者施設が在り、連携体制が築かれ、各種備蓄品の管理も運営母体で成されています。事業継続計画(BCP)策定の準備を進めています。	前回の外部評価時に掲げた目標内容となる、自然災害時に対応するマニュアルの作成、地域との連携体制作り、事業所内での備蓄品の整備等を継続して取り組む事を期待します。

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者個々の性格の特徴や好む会話方法など把握しながら言葉遣いや声掛けの方法を工夫するようにしている。	利用者にとって、どのような対応や言葉かけが最善か話し合い、意識し、誇りやプライバシーを損ねない対応に努めています。「さん」付けで名前を呼び、申し送り時には部屋番号を使用し、個人記録簿も適切に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の表情や行動の観察の中から希望をくみ取るようにしたり、選択肢を示すなど思いを表しやすい環境を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	一人一人のペースを大切に活動やレクリエーションを用意し、その時の体調や気持ちに配慮しながら参加や休息ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に一度来訪する訪問理容で散髪を行ってもらうことや、日々の整容、服選び、爪、耳、髭の手入れなど支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日届く食材を、翌日のメニューを予想しながら入居者の皆さんと仕分けをしたり、誕生日はご本人の好物を献立にし食事を楽しんでいただいている。	献立と食材は外部に委託していますが、時には要望に応じて柔軟にアレンジしたり、食事形態も個別に対応しています。誕生会や季節の行事食も利用者の好物を取り入れ工夫を凝らしています。畑の収穫物を活用し漬物や酢の物などを利用者と一緒に作ることで、出来る力を引き出しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者それぞれに合わせた食形態の対応や、水分のトロミの調整などを行っている。また、担当看護師がBMI値を計算してくれ、食事量の加減や補食の対応を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアでそれぞれの方の能力に合わせて介助を調整している。また、口腔ケア用のウェットティッシュやスポンジの活用、歯科衛生士による口腔ケアを定期的に受けている方もおり、介助方法の助言も受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人一人に合わせて定時の声掛け、誘導を行っている。可能な限りトイレでの排泄を支援し、失敗しても速やかに対応。声のかけ方や言葉を選び自尊心への配慮を大切にしている。	排泄チェック表を基本に、一人ひとりの排泄感覚やサインを見逃さず、トイレでの排泄を支援しています。衛生用品等の使用の際は、自立や意欲に結び付くかなどの視点で検討し失敗の軽減に取り組んでいます。自力排泄、複数介助、ベッド上のオムツ交換では、プライドに配慮した支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の状況を把握し、体操で体を動かしたり、水分の量や内容を検討し薬に頼りすぎないで出来る対応を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	ご本人の体調や希望に合わせて調整したり、ご自身の出来ないところを支援したり羞恥心や恐怖心を感じないようにお話を交えながら一声掛け、ご本人合わせて行っている。	入浴は週2回を目安に、複数介助を取り入れ、言葉かけや対応を工夫し、皆が湯船に浸かれるように支援しています。職員は会話の中から思いの把握に努め、ケアに生かしています。お風呂好きが多く、入浴剤の使用や、湯上り時は洗顔後の化粧水や保湿クリームで肌を整え、潤いを感じながら清潔保持に努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の休息や夜間の睡眠を把握しご本人の自然な生活リズムで日々穏やかに過ごして頂くよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方時、変更時は記録や日誌に用法などを記録し周知するようにしている。また、内服後の経過などもスタッフ間で話し合い担当看護師への報告も行っている。薬のセット時、内服前の2回ダブルチェックをし誤薬の内容に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	認知の進行によりできる活動が変わって来たり、コロナの影響で外出行事は出来ていないが、館内で洗濯物、シーツたたみや食材の仕分け、レクなどしたり、中庭で外気浴など行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染の懸念があり外食や外出行事は出来なかったが、天気の良い日は中庭での外気浴や同法人の老健中庭mでお花見散歩に行っている。	外出は自粛していますが、密を避けて周辺の散歩で開放感を味わっています。中庭にはサクラノ木が植えてあり、畑や花壇も作り、利用者は季節を感じながら、水遣りや収穫を手伝い、ウッドデッキでお茶を楽しむなど、外気浴を楽しめる寛ぎの空間で気分転換を図っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はホーム側で行っているが、外出時はご自分の好きなものを選ぶ楽しみや支払いの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からお電話が来た時のお話できるように支援したり、手作りの年賀状を送るなどご家族とのつながりを大切に出来るよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同生活空間は、温度、湿度、換気などに気を付けている。季節に合わせて食堂や廊下などに飾りや入居者の皆さんの写真を掲示し、一緒に楽しんでいただけるようにしている。	共用空間は天井が高く、ベランダの窓も大きく、そこから繋がるウッドデッキの先には2ユニット共有の中庭があり、明るく開放感に満ち、日光浴やお茶会を楽しんでいます。リビングには食卓テーブルを、廊下にはイスを配置し、その時の気持ちに配慮できるような居場所の工夫に努めています。壁には、季節の飾りや利用者の作品、スナップ写真が掲示され、温もりと安心感のある環境を整えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士が不快にならないようにテーブルの空間を保ち、体調や不穩者に応じて席の変更なども行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人とご家族と一緒に写っている写真を飾ったり、季節ごとに飾りを変えたりしている。また、居室前に名前やご本人の写真を掲示し安心して居室で過ごせるよう工夫している。	居室にはクローゼット、洗面台、ベッド、チェストが備えてあり、プライバシーが守られる空間となっています。自室が分かりやすい表札と写真が飾られています。入居時には其々に馴染みの調度品やテレビ、時計、カレンダーなど持ち込み、趣味のぬいぐるみや人形、家族写真に囲まれ、自分らしい居室を整えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで、廊下やトイレなどに手すりを設置している。また、ベッドのサイドレールに柔らかいカバーを付けたり、車椅子の手すりにもカバーをし安全に配慮している。		